資　料

札幌保健医療大学看護学科カリキュラム改訂に向けて
― 2013年度から2016年度の変遷 ―

Provisions for the revision of curriculum of the nursing department at Sapporo University of Health Sciences
― The transition from the 2013 to the 2016 curriculum ―

井上由紀子*
Yukiko Inoue

キーワード：カリキュラム，看護学，教育

Key words：curriculum, nursing, education

要旨

札幌保健医療大学看護学部看護学科は、「人間力教育を根幹とした医療人の育成」を教育理念に2013年開学した。理念の具現化としてのカリキュラムは、看護学を構成する「人間」「健康」「社会・環境」「看護」の概念とその関係性を枠組みに、生涯学び続ける基礎を培うことを目的に編成した。本稿では、開学に向けて作成された看護学科カリキュラムの内容と特色、また開学後学習が進行するうえで、一部開講時期を変更した科目等を含めたカリキュラムの概要を報告する。今後カリキュラム改訂にあたり、教育計画、実施、評価の一連の過程をカリキュラム作成段階において明確化すること、全ての教員がカリキュラム作成に参加していく体制作りの必要性が示唆された。

* 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科　Department of Nutrition, School of Health Sciences, Sapporo University of Health Sciences

Ⅰ．はじめに

札幌保健医療大学看護学部看護学科は、「人間力教育を根幹とした医療人の育成」を教育理念に2013（平成25）年開学した。本学が目指す人間力教育とは、「豊かな感性」、「高潔な精神」、「確かな知力」を培い、これらの調和と自己向上を図りながら社会の中で「他者との共存」ができる人材育成である。理念の具現化としてのカリキュラムは、看護学を構成する「人間」、「健康」、「社会・環境」、「看護」の概念とその関係性を枠組みに、生涯学び続ける基礎を培うことを目的として編成した。これら４年間の学習により卒業時には７つの能力を修得することを到達目標とした（表１）。また、本学の看護学教育を目指す入学者受け入れ方針としては４つを策定した（表２）。開学から５年間が経過した2017（平成29）年には、栄養学科を新設し保健医療学部看護学科として再スタートした。

小山[1]は、看護は社会のニーズによって生まれるものであり、ゆえに看護教育は社会のニーズに対応できる人材の育成を目指していると述べている。今日、医療技術の急速な発展と高齢社会の進展により看護職に対する期待が高まっている。看護系大学は、2017（平成29）年には257校となり量的拡大により社会のニーズに応えている。一方で、社会から看護学教育の質保証に重大な関心がよせられ、大学は、看護専門職者の基礎として何をどこまで修得させるか、どのように基準の実践能力を育成するかを公表することが求められている。2016（平成28）年に行われた医学教育や歯学教育のモデル・コア・カリキュラム改訂では、他職種との整合性を図ることの重要性が指摘され、看護学教育においてもモデル・コア・カリキュラム策定が検討されている[2]。これに対して日本看護系大学協議会では、看護学は医学や歯学と異なる学問体系であり2011（平成23）年に発表された５つの群と20のコア・コンピテンシーに基づいたモデル・コア・カリキュラム策定の必要性を指摘している[3]。

こうしたなか本稿では、開学に向けて作成された本学カリキュラムの内容と特色、また、開学後学習を進行していくうえで、一部開講時期を変更した科目等を含めたカリキュラムの概要を報告する。さらに、現行のカリキュラムの課題を明らかにするとともに、今後のカリキュラム改訂に向けての示唆を得る。

本稿で用いる「カリキュラム」という用語は、正規の授業として編成される科目名およびその内容と科目配置をさしている。

表１　卒業時の到達目標（ディプロマ・ポリシー）

１．職業人として、日本語および英語の運用能力、ならびに情報リテラシーの基盤を身につけ、これらを用いて論理的な分析と思考・判断及び表現する能力を有している。
２．自己の良心と社会規範に従い、社会の一員としての責任感のもとに自己を統制し行動できるとともに、社会のために積極的に関与できる態度を有している。
３．人間と生活、心身の健康、社会の直面する諸課題についての基礎知識を習得し、人間・健康・社会の関係を体系的に理解する能力を有している。
４．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための倫理的態度を有している。
５．看護の目的と対象となる個人・家族・集団の特性を理解し、健康課題の特性と解決に必要な看護実践ができる基礎的能力を有している。
６．保健医療福祉体制のもとで、看護職と他職種の役割について認識し、他職種とチーム連携・協働するために必要な基礎的能力を有している。
７．自己の看護能力の向上のために、最新の知識・技術を学び続ける学習態度と看護の課題を解決する能力を有している。

表２　入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

１．確かな学力
２．看護への関心
３．豊かな社会性
４．強い向上心

Ⅱ．平成25年度（2013年）カリキュラム

看護学部看護学科は、教育理念である「人間力教育」を根幹に、「看護の専門職者として、社会生活にも知的活動にも必要な知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、創造的思考力を習得し、看護学分野に関する基礎的な知識及び基本的な技術と態度、多職種との連携・協働力、さらに生涯にわたり成長し続け

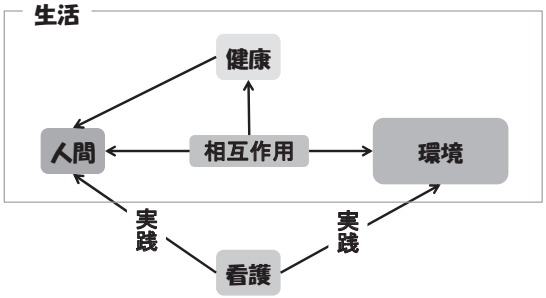
るための基盤となる資質と能力を培う」ことを教育目的とした。この目的を達成するために、カリキュラム編成は、社会人として基盤形成となる「基礎教育科目」と、看護職としての基盤形成となる「専門基礎科目」および「専門科目」とした。

下記にカリキュラム編成の基本的な考え方、カリキュラム編成の特色、カリキュラム編成と科目配置について、「札幌保健医療大学看護学部設置許可申請書」[4]をもとに述べていく。

1．カリキュラム編成の基本的な考え方

カリキュラム編成の基本的な考え方は、看護学を体系づける「人間」、「健康」、「社会・環境」、「看護」の主要概念とその関係性を枠組みにしている。つまり、人間は環境と相互作用しながら生活しており、その相互作用により人間の健康状態は変化する。看護は、その人がその人らしい生活を送るために、その人にとってより最適な健康状態となるように人間と環境に働きかける（図１）。この枠組みに基づいて、「基礎教育科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」を構成した。

図１



2．カリキュラム編成の特色

１）看護基礎教育を重視したカリキュラムの編成

カリキュラム編成の特色としては、４年間の看護基礎教育の段階では特定分野における完成教育というよりも、生涯学び続ける基礎を培うより普遍的な教育が求められていることから、専門分野の基礎・基本を重視した教育を行うことにより専門的素養のある人材として活躍できる基礎的能力や生涯学習の基礎を培うこととした。特に、看護学分野の学部教育は、看護生涯学習の出発点であることをふまえ、卒業後、看護職として成長していく過程において実務などを通じて向上していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会などを通じて成長していくうえでの基礎・基本となる資質や能力を身につけるための看護基礎教育を重視することとした。

具体的には、卒業時の教育成果として看護師および保健師の国家試験受験資格を付与できる教育内容とし、「大学における看護系人材育成の在り方に関する検討会最終報告」[5]の「人の支援に関わる看護系人材の養成において求められる教養教育の充実」をふまえたカリキュラム編成とした。その際、４年間の教育期間内において教育研究上の目的や人材養成の目的を確実に達成するとともに、看護基礎教育の重要性をふまえたうえでカリキュラムが過密とならないように配慮し、教育内容を精選するとともに必要な授業科目の優先順位を考慮した配置とした。

２）中央教育審議会答申などをふまえたカリキュラムの編成

カリキュラム編成・実施の方針が教育研究上の目的や人材養成の目的を達成するために策定され、かつカリキュラム編成において体系性と順序性が明確であることを示すため、「科目配置表」（表３）により学年ごとの授業科目を示すとともに、「教育課程体系図」（図２）により到達目標と授業科目との関係および授業科目間の系統性を明示した。

また、基礎教育科目は、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」[5]の提言する「各専門分野に通じて培う学

士力～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～」および「大学における看護系人材育成の在り方に関する検討最終報告」の提言する「人の支援に関する看護系人材育成において求められる教養教育の充実」をふまえ、「看護の専門職者として社会生活にも知的活動にも必要な知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、創造的思考力の習得」という目的を達成するためのカリキュラム編成とした。

表3

科目配置表

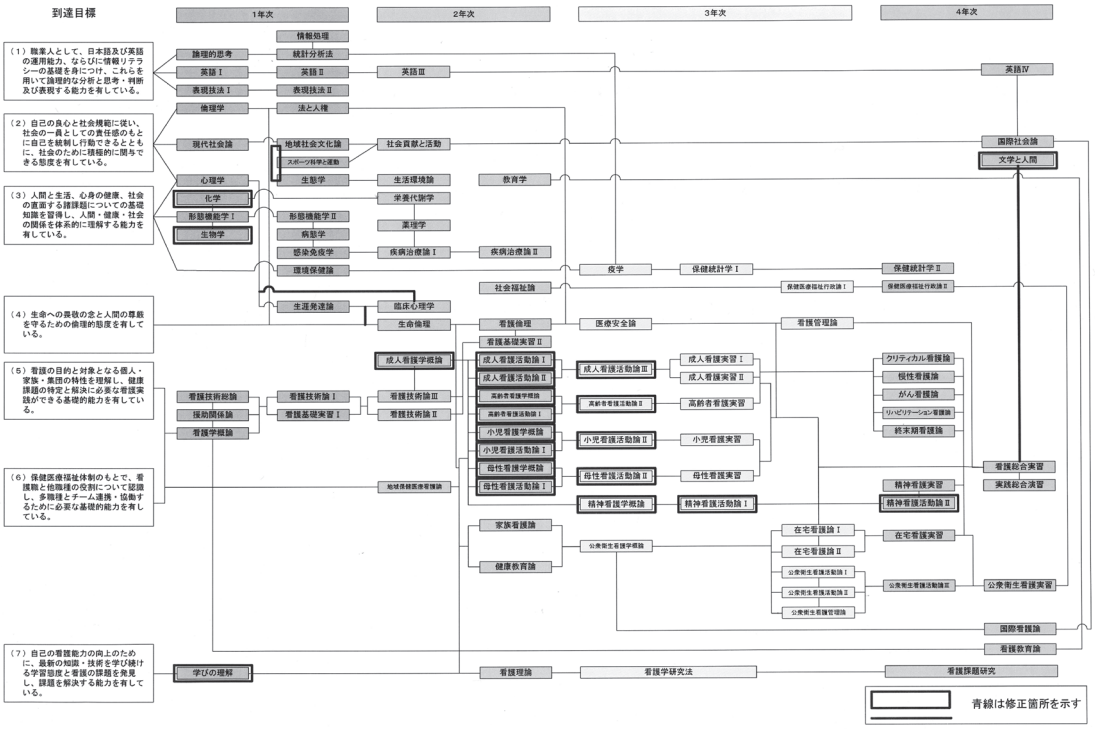
区分		1年次 前期	単位	1年次 後期	単位	2年次 前期	単位	2年次 後期	単位	3年次 前期	単位	3年次 後期	単位	4年次 前期	単位	4年次 後期	単位	単位計
基礎教育科目	学習と思考力	学びの場所 生物学 化学 論理的思考 情報処理	1 (1) (1) 2 1	統計分析論	1													7(選択2)
基礎教育科目	言語と表現力	英語Ⅰ(基礎) 表現技法Ⅰ(論説・分析)	1 1	英語Ⅱ(会話) 表現技法Ⅱ(討議・発表)	1 1	英語Ⅲ(読解)	(1)									英語Ⅳ(総合)	(1)	6(選択2)
基礎教育科目	人間と社会	心理学 倫理学 生命学 現代社会論	2 1 (1) 2	スポーツ科学と運動 地域社会文化論 法と人権	(2) (2) (2)	生涯環境論 社会貢献と活動	(2) (1)	教育学	(1)							文学と人間 国際社会論	(2) (1)	17(選択12)
基礎教育科目(小計)		11科目(選択3科目)	14	8科目(選択3科目)	8	(選択5科目)	4	(選択1科目)	1							(選択3科目)	3	30(選択16)
専門基礎科目	個人と健康	形態機能学Ⅰ	2	形態機能学Ⅱ 感染免疫学 病態学 生涯発達論	2 2 2 1	薬理学 栄養代謝学 臨床心理学 疾病治療論Ⅰ	2 2 1 2	疾病治療論Ⅱ	2									18
専門基礎科目	社会と健康			環境保健論	1	生命倫理	(1)	社会福祉論	2	保健統計学Ⅰ 疫学	1 (2)	保健医療福祉行政論Ⅰ	1	保健医療福祉行政論Ⅱ 保健統計学Ⅱ	(2) (1)			11(選択6)
専門基礎科目(小計)		1科目	2	5科目	6	5科目(選択1科目)	9	2科目	4	2科目(選択1科目)	3	1科目	1	(選択2科目)	3			29(選択6)
専門科目	看護の基本	看護学概論 看護技術概論 援助関係論 看護基礎実習Ⅰ	2 1 1 1	看護技術論Ⅰ	2	看護技術論Ⅱ 看護技術論Ⅲ 地域保健医療看護論	2 1 1	看護理論 看護基礎実習Ⅱ 看護倫理 臨床教育論	1 2 1 2									17
専門科目	人間の発達段階と看護活動					成人看護学概論 高齢者看護学概論	1 1	成人看護活動論Ⅰ 成人看護活動論Ⅱ 高齢者看護活動論Ⅰ 小児看護学概論 小児看護活動論Ⅰ 母性看護学概論 母性看護活動論Ⅰ	2 1 1 2 1 2 1	成人看護実習Ⅰ(選年) 成人看護実習Ⅱ(選年) 高齢者看護実習(選年) 小児看護実習(選年) 母性看護実習(選年) 成人看護活動論Ⅲ 高齢者看護活動論Ⅱ 小児看護活動論Ⅱ 母性看護活動論Ⅱ 精神看護活動論Ⅰ	1.5 1.5 2 1 1 1 1 1 1 2	成人看護実習Ⅰ(選年) 成人看護実習Ⅱ(選年) 高齢者看護実習(選年) 小児看護実習(選年) 母性看護実習(選年) 精神看護実習(選年)	1.5 1.5 2 1 1 1	精神看護活動論Ⅱ 精神看護実習	1 2			36
専門科目	看護の統合と探究							家族看護論	(1)	医療安全論 看護学研究法(選年)	2 1	在宅看護論Ⅰ 在宅看護論Ⅱ 看護学研究法(選年) 看護管理論	2 1 1 (1)	看護臨床研究(選年) 看護総合演習 リハビリテーション看護論 がん看護論 クリティカル看護論 慢性看護論 終末期看護論 在宅看護実習	1 2 (2) (2) (2) (2) 2	看護臨床研究(選年) 精神看護論 看護教育論 実践総合演習	1 (2) (2) 1	27(選択13)
専門科目	公衆衛生看護学									公衆衛生看護学概論	(1)	公衆衛生看護活動論Ⅰ 公衆衛生看護活動論Ⅱ 公衆衛生看護管理論	(2) (2) (1)	公衆衛生看護活動論Ⅲ	(1)	公衆衛生看護実習Ⅰ 公衆衛生看護実習Ⅱ 公衆衛生看護実習Ⅲ	(2) (2) (2)	(選択12)
専門科目(小計)		4科目	8	1科目	2	5科目	8	12科目(選択1科目)	17	10科目(選択1科目)	17	10科目(選択4科目)	18	10科目(選択6科目)	18	6科目(選択5科目)	9	92(選択25)
合計		16科目(選択3科目)	21	12科目(選択3科目)	18	13科目(選択4科目)	18	15科目(選択2科目)	22	12科目(選択3科目)	20	11科目(選択4科目)	19	12科目(選択5科目)	21	8科目(選択5科目)	12	151(選択47)
看護教諭二種免許取得申請に必要な科目				情報管理論 スポーツ理論	(1) (1)													
合計				2科目(選択2科目)	2													2(選択2)

※単位数の○数字は選択科目、その他は必修科目である。表中の選年科目の単位数は、前期、後期各半分でカウント。

科目数合計:103科目(選択36科目)

図2

教育課程体系図



3．カリキュラム編成と科目配置

カリキュラム編成と主な科目について述べる。

1）基礎教育科目

基礎教育科目は、上述したように「人間」「社会・環境」を中心に、「社会生活にも知的活動にも必要な知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、創造的思考力の習得」を目的に、「学習と思考力」「言語と表現力」「人間と社会」の科目群から構成した（表４）。

「学習と思考力」では、大学生活の出発点として大学で学ぶ意義、社会人として看護職者として求められる社会的責任と行動、職業観の形成を促すために、また本学の理念教育の一環として『学びの理解』を１年次前期に配置した。さらに、社会生活や職業生活における知的活動に必要な技能としての数量的スキル・情報リテラシー・倫理的思考力・問題解決力に関する能力の習得をめざすため『論理的思考』『情報処理』『統計分析法』を必修科目として配置した。

「言語と表現力」では、社会生活や職業生活において必要となる日本語と英語による「読む・書く・聞く・話す」というコミュニケーション・スキルを身につけることを目的に『英語』と『表現技法』を配置した。

「人間と社会」では、看護の対象である人間や一人ひとりの健康と生活を規定する自然や文化・社会に関することを含め、社会人として職業人として必要となる知的活動の基礎・基本となる知識の理解および社会的態度・志向性を培うことを目的に、『心理学』『倫理学』また、『現代社会論』を必修科目として配置した。選択科目としては、『生活環境論』『教育学』『地域社会文化論』等を配置した。

2）専門基礎科目

専門基礎科目は、基礎教育科目の学習を活用しながら、看護学の理論と実践の支持基盤として「人間」「社会･環境」「健康」の観点から保健医療福祉に関する教育内容を編成し、専門科目との円滑な接続が図れるように「個人と健康」「社会と健康」の科目群から構成した（表４）。

「個人と健康」では、個体としての人間を「身体」「心理・精神」「社会」的に統合された存在として理解することをふまえたうえで、人体の構造と機能および疾病の成り立ちと回復に関する基礎的な知識・技術を習得するため、人体の構造と機能の体系的理解として『形態機能学Ⅰ』『形態機能学Ⅱ』、病原体と生体の防御機構等に関する『感染免疫学』、生体と代謝機構と健康等に関する『栄養代謝学』、人間のライフステージの各時期の身体的・心理社会的特徴と発達的課題に関する『生涯発達学』、人間の病的な心理反応や適応障害・カウンセリングの基礎等に関する『臨床心理学』、生体における疾病・障害の病態生理・メカニズムに関する『病態学』、薬物と生体反応等薬理に関する『薬理学』、主な疾病の病態と治療方法に関する『疾病治療学Ⅰ』『疾病治療学Ⅱ』を配置した。これらの科目における知識の修得は、看護を実践するために必要不可欠なものであることから全科目を必修科目として配置した。

「社会と健康」では、人々の生活する社会環境が､看護の目的である健康増進･病気の予防・健康回復過程のあらゆる面に関係していることから人々の生涯を通じて健康・障害の状態に応じた社会資源の活用、小集団や地域の健康課題を評価し支援するための看護実践力形成の基礎となる知識・技術を習得するための科目配置とした。なお、ここでは、看護基礎教育の共通基盤となる必修科目『環境保健論』『社会福祉論』『保健福祉行政論Ⅰ』『保健統計学Ⅰ』と、公衆衛生看護学の

専門性に特化した科目『疫学』『保健福祉行政論Ⅱ』『保健統計学Ⅱ』、および学生の知的関心に応じて選択できる『生命倫理』を配置した。

3）専門科目

専門科目は、「基礎教育科目」「専門基礎科目」を基盤にして、文部科学省答申「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」の教育内容と学習成果をふまえ、看護実践の基盤となる「看護学の基礎的知識・技術・態度」「他職種との連携・協働力」「生涯成長し続けるための資質・能力」に関する教育内容に編成し、看護学の理論と実践を体系的かつ系統的に習得できるよう「看護の基本」「人間の発達段階と看護活動」「看護の統合と探究」および「公衆衛生看護学」の科目群から構成した（表４）。

「看護の基本」では、看護の概念・目的・役割機能、および看護の対象である個人・家族・集団・地域社会、健康の概念と各レベル、健康と社会・環境との相互関係、社会資源としての保健医療福祉体系の基礎等について習得する。さらに、対象者の健康課題・問題を特定し解決するための看護実践、他職種とのチーム連携･協働の意義と看護職の役割等の基礎･基本となる学習として科学的根拠に基づいた看護を実践するための看護過程、看護の支援方法である諸看護技術、看護および保健医療福祉チームとの連携・協働に関する基礎的な知識・技術の習得を図る。これらの教育内容は、「人間の発達段階と看護活動」の基盤となるものであることから全科目を必修科目として編成した。

実習科目においては、『看護基礎実習Ⅰ』を１年次前期に配置し、看護の役割機能および対象者の療養生活の理解、対象者とのコミュニケーションを目的にした。入学早期に臨地実習を体験することにより、その後の学習において看護のイメージを想起し、臨場感をもって学習に臨み、看護への学習意欲や関心の向上を図ることをねらいとした。また、２年次後期には『看護基礎実習Ⅱ』を配置し、既習の知識・技術・態度を統合し日常生活の援助を中心とした看護実践の展開、対象者との対人関係の形成、看護チームとの協働の実際、看護学生としての倫理的行動に関する看護実践力の基礎・基本を習得することを目的とした。

「人間の発達段階と看護活動」では、人材養成の目的をふまえ、あらゆる発達段階と健康レベルにある人々を対象とする看護において、①看護実践の展開、②対人関係の形成、③社会資源の活用とチーム連携・協働、④倫理的行動と問題認識を教育内容に、成人看護学、高齢者看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の科目で構成した。主として各科目の『概論』ではライフサイクルにおける各発達期の位置づけと特性、各発達期の健康課題と看護の役割等、各看護学の理論を習得する。『活動論Ⅰ』においては各発達期の健康状態と生活に関するアセスメントおよび健康課題の特定、健康課題に対応した看護の支援方法とチーム連携・協働のあり方、社会資源の活用についての基礎的知識と技術を習得する。『活動論Ⅱ』では、各発達期の看護事例を用い、看護学の理論的理解と技術の実践的統合を図ることとした。成人看護学においては、『成人看護学Ⅱ』で急性期のうち周手術期および慢性疾患に伴う看護技術の習得をめざし実践型の技術力強化を図り、『成人看護学Ⅲ』において看護事例による実践的統合を目的とした。

成人･高齢者･小児･母性･精神看護学の各実習科目は、看護基礎実習Ⅱを基盤に、各発達段階において健康課題・問題をもつ対象者と家族への看護実践能力

を、①看護実践の展開、②対人関係の形成、③社会資源の活用とチーム連携･協働、④倫理的行動と問題認識の4つを学習課題として配置した。成人看護学においては、『成人看護学Ⅰ』と『成人看護学Ⅱ』とし、医療機関における急性期と慢性期の各病棟で実習を行うこととした。

「看護の統合と探究」では、人材養成の目的および到達目標をふまえ、看護実践の統合・応用力、チーム連携、生涯学習力、課題解決力の強化を主たるねらいとした必修科目と、学生の関心分野あるいは将来専門分野に進むための基盤形成に役立つ可能性の高い選択科目で構成した。

必修科目においては、在宅看護論を『在宅看護論Ⅰ』と『在宅看護論Ⅱ』としそれぞれ3年次後期に配置した。『在宅看護論Ⅰ』では、成人・高齢者・小児・精神看護学での履修内容を基盤に、在宅看護の概念、在宅療養者の健康状態の特徴、療養者と家族の理解、看護の役割機能等、在宅看護における基本的知識・技術を習得する。『在宅看護論Ⅱ』では、看護事例を用いて在宅看護実践力の基礎を習得することとした。また、『在宅看護実習』は、4年次前期に配置した。

「汎用的技能や創造的思考力」および「看護者として生涯成長し続ける能力」の到達目標をふまえ、看護学の研究の意義・目的、研究方法に関する基礎知識を習得するために3年次通年科目として『看護学研究法』を配置した。また、4年次通年科目として『看護課題研究』を配置し、自己の看護への興味や疑問から自ら課題を設定し解決するための基礎的能力を養うこととした。

4年次前期には、選択科目として『がん看護論』『クリティカル看護論』『慢性看護論』『リハビリテーション看護論』を配置した。これらは、「人間の発達段階と看護活動」の観点から履修した学習を特定の健康問題を焦点に捉え直し、特定の健康課題を抱える対象者の特性、看護実践の専門的知識と技術、チーム医療の特徴、保健医療福祉資源の特徴についての専門的な知識・技術の理解を深める科目とした。実習科目として、『看護総合実習』を4年次前期に配置した。本科目は、これまでの看護学の学習と上述した選択科目等の先行学習を統合し、多くの医療機関や在宅等の臨地で遭遇する可能性の高いがん疾患や慢性疾患、重篤状態、リハビリテーションの患者への看護実践、他職種との連携のあり方等の理解を深めることを目的とした。同様に、卒後経験する看護実践の活動実態に接近した学習方法、看護の知識・技術、実習経験の統合という視点では4年次後期に『実践総合演習』を配置した。この科目は、看護実践力や職務遂行力に関する教育成果を評価するとともに職業人としての将来に向けた自己課題の明確化とその対策を自己に課す学習活動を通して生涯学習力を養うことをねらいとした。

公衆衛生看護学においては、少子・高齢化に伴い、地域社会に生活する人々の健康生活をいかに維持・増進し、疾病を予防するか、さらに地域災害・事故対策など公衆衛生の観点から看護職の専門的機能を発揮する分野として選択科目群を編成した。公衆衛生看護学の選択科目群は、保健師国家資格取得希望者のうち選抜された履修許可者のみ必修科目とした。公衆衛生看護学科目群としては、『公衆衛生看護学概論』『公衆衛生看護活動論Ⅰ』『公衆衛生看護活動論Ⅱ』『公衆衛生看護活動論Ⅲ』『公衆衛生看護管理論』『公衆衛生看護実習Ⅰ』『公衆衛生看護実習Ⅱ』『公衆衛生看護実習Ⅲ』を配置した。

表 4―1

教育課程表（平成25年度）
（卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧）

●:学科必修　○:保健師国試受験資格取得希望者必修　◎:保健師国試受験資格取得希望者限定必修

科目区分		授業科目の名称	授業形態	単位数 必修	単位数 選択	開講年次・時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	卒業認定に必要な科目と単位 履修	単位	保健師国家試験受験資格取得希望者 履修	単位	養護教諭二種免許取得希望者 履修	単位	卒業必要単位数
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	講義	1		15								●		●		●		【基礎教育科目】必修科目14単位 選択科目10単位 以上 計24単位以上修得
		生物学	講義		1	15														
		化学	講義		1	15														
		論理的思考	講義	2		30								●		●		●		
		情報処理	演習	1		30								●		●		●		
		統計分析法	演習	1			30							●		●		●		
	言語と表現力	英語Ⅰ（基礎）	演習	1		30								●		●		●		
		英語Ⅱ（会話）	演習	1			30							●		●		●		
		英語Ⅲ（読解）	演習		1			30												
		英語Ⅳ（総合）	演習		1								30							
		表現技法Ⅰ（読解・分析）	演習	1		30								●		●		●		
		表現技法Ⅱ（討議・発表）	演習	1			30							●		●		●		
	人間と社会	心理学	講義	2		30								●		●		●		
		倫理学	講義	1		15								●		●		●		
		現代社会論	講義	2		30								●		●		●		
		生態学	講義		1	15														
		生活環境論	講義		2			30												
		教育学	講義		1				15											
		文学と人間	講義		1								15							
		スポーツ科学と運動	演習		1		30											○		
		法と人権	講義		2		30											○		
		地域社会文化論	講義		2		30													
		国際社会論	講義		1								15							
		社会貢献と活動	演習		1			30												
	小　計　（24科目）		－	14	16															
専門基礎科目	個人と健康	形態機能学Ⅰ	講義	2		30								●		●		●		【専門基礎科目】必修科目23単位 選択科目4単位 以上 計27単位以上修得
		形態機能学Ⅱ	講義	2			30							●		●		●		
		感染免疫学	講義	2			30							●		●		●		
		病態学	講義	2			30							●		●		●		
		薬理学	講義	2				30						●		●		●		
		栄養代謝学	講義	2				30						●		●		●		
		生涯発達論	講義	1			15							●		●		●		
		臨床心理学	講義	1				15						●		●		●		
		疾病治療論Ⅰ	講義	2				30						●		●		●		
		疾病治療論Ⅱ	講義	2					30					●		●		●		
	社会と健康	環境保健論	講義	1			15							●		●		●		
		社会福祉論	講義	2					30					●		●		●		
		疫学	講義		2					30						○		○		
		保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	1							15			●		●		●		
		保健医療福祉行政論Ⅱ	講義		2							30				○		○		
		保健統計学Ⅰ	演習	1						30				●		●		●		
		保健統計学Ⅱ	演習		1							30				○		○		
		生命倫理	講義		1			15												
	小　計　（18科目）		－	23	6															
専門科目	看護の基本	看護学概論	講義	2		30								●		●		●		
		看護技術総論	演習	1		30								●		●		●		
		援助関係論	演習	1		30								●		●		●		
		看護技術論Ⅰ	演習	2			60							●		●		●		
		看護技術論Ⅱ	演習	2				60						●		●		●		
		看護技術論Ⅲ	演習	1				30						●		●		●		
		健康教育論	講義	2					30					●		●		●		
		地域保健医療看護論	演習	1				30						●		●		●		
		看護倫理	講義	1					15					●		●		●		
		看護理論	講義	1					15					●		●		●		
		看護基礎実習Ⅰ	実習	1		45								●		●		●		
		看護基礎実習Ⅱ	実習	2					90					●		●		●		

表 4―2

専門科目	人間の発達段階と看護活動	成人看護学概論	講義	1				15						●		●		●		【専門科目】必修科目67単位 選択科目6単位 以上 計73単位以上修得
		成人看護活動論Ⅰ	講義	2					30					●		●		●		
		成人看護活動論Ⅱ	演習	1					30					●		●		●		
		成人看護活動論Ⅲ	講義	1						15				●		●		●		
		成人看護実習Ⅰ	実習	3						135				●		●		●		
		成人看護実習Ⅱ	実習	3						135				●		●		●		
		高齢者看護学概論	講義	1				15						●		●		●		
		高齢者看護活動論Ⅰ	演習	1					30					●		●		●		
		高齢者看護活動論Ⅱ	講義	1						15				●		●		●		
		高齢者看護実習	実習	4						180				●		●		●		
		小児看護学概論	講義	2					30					●		●		●		
		小児看護活動論Ⅰ	演習	1					30					●		●		●		
		小児看護活動論Ⅱ	講義	1						15				●		●		●		
		小児看護実習	実習	2						90				●		●		●		
		母性看護学概論	講義	2					30					●		●		●		
		母性看護活動論Ⅰ	演習	1					30					●		●		●		
		母性看護活動論Ⅱ	講義	1						15				●		●		●		
		母性看護実習	実習	2						90				●		●		●		
		精神看護学概論	講義	2						30				●		●		●		
		精神看護活動論Ⅰ	演習	1							30			●		●		●		
		精神看護活動論Ⅱ	講義	1								15		●		●		●		
		精神看護実習	実習	2								90		●		●		●		
	看護の統合と探究	在宅看護論Ⅰ	講義	2							30			●		●		●		
		在宅看護論Ⅱ	演習	1							30			●		●		●		
		医療安全論	講義	2						30				●		●		●		
		看護学研究法	講義	2						30				●		●		●		
		看護課題研究	演習	2								60		●		●		●		
		リハビリテーション看護論	講義		2							30								
		がん看護論	講義		2							30								
		クリティカル看護論	講義		2							30								
		慢性看護論	講義		2							30				○		○		
		終末期看護論	講義		1							15								
		家族看護論	講義		1				15							○		○		
		国際看護論	講義		1								15			○		○		
		看護管理論	講義		1						15									
		看護教育論	講義		1								15							
		在宅看護実習	実習	2								90		●		●		●		
		看護総合実習	実習	2								90		●		●		●		
		実践総合演習	演習	1									30	●		●		●		
専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	講義		1					15						○		○		公衆衛生看護学概論のみ全員選択可 (※1)
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	講義		2						30					◎		◎		
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	演習		2						60					◎		◎		
		公衆衛生看護活動論Ⅲ	講義		1							15				◎		◎		
		公衆衛生看護管理論	講義		1						15					◎		◎		
		公衆衛生看護実習Ⅰ	実習		2								90			◎		◎		
		公衆衛生看護実習Ⅱ	実習		2								90			◎		◎		
		公衆衛生看護実習Ⅲ	実習		1								45			◎		◎		
	小　計（59科目）		―	67	25															
合計（101科目）			―	104	47															―
養護教諭二種免許取得申請に必要な科目		情報管理論	講義		1		15											○		(※2)
		スポーツ理論	講義		1		15											○		
合計（2科目）			―	0	2															

卒　業　要　件　及　び　履　修　方　法

1年間の履修科目の登録の上限は、38単位とする。

基礎教育科目では24単位以上(必修14単位および選択科目10単位以上)、専門基礎科目27単位以上（必修23単位および選択科目4単位以上）、専門科目73単位以上（必修67単位および選択科目6単位以上）を履修し、合計124単位以上を修得していること。

(※1)保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件（124単位）の他に、公衆衛生看護学科目の全て(12単位)を修得すること。なお、専門基礎科目及び専門科目の選択科目のうち、「疫学」「保健医療福祉行政論Ⅱ」「保健統計学Ⅱ」「慢性看護論」「家族看護論」「国際看護論」の単位は必ず修得することとし、合計137単位以上を修得していること。

(※2)養護教諭二種免許取得申請希望者は、保健師国家試験の受験に必要な科目のほかに養護教諭免許取得申請に必要な科目の全てを修得すること。なお、基礎教育科目の選択科目のうち、「法と人権」「スポーツ科学と運動」の単位は必ず修得していること。なお、「情報管理論」「スポーツ理論」の単位数は、卒業要件および履修科目の登録の上限38単位には含まない。

Ⅲ．平成25年度（2013年）カリキュラム一部開講科目の学期変更とその理由

平成25年度カリキュラムが開始され、学習を進行していくうえでさまざまな意見が教学より提案された。それらはカリキュラム検討会（平成25 ～ 26年）およびカリキュラム専門委員会（平成27 ～ 28年）、さらに教務委員会で検討され、教授会の議を経て下記に示す内容が変更された。

1．平成26年度（2014年）開講科目の学期変更

1）母性看護学概論および小児看護学概論（２年次後期から２年次前期科目へ）

「母性看護学概論・小児看護学概論は、母性看護や小児看護の対象理解・健康課題の理解・役割の理解を目的とした講義科目である。現行カリキュラムでは、支援方法を学ぶ演習科目である母性看護活動論Ⅰ・小児看護活動論Ⅰと２年後期の同時開講となっている。母性看護や小児看護の概要を理解したうえで、それぞれの看護をしていくために必要な支援方法を学ぶ演習科目へと段階的に進めていった方が学生の学習進度として適切であると考える。また、学習効果も得られると考え、概論を先行させることにしたい。」（2013年11月27日教授会）

2）成人看護活動論Ⅰ（２年次後期科目から２年次通年科目へ）

「成人看護活動論Ⅰは、急性期および慢性期にある成人の対象について理解し、対象および家族への支援方法を理解することを目的とした講義科目である。現行では演習科目である成人看護活動論Ⅱと同時開講になっている。疾病治療論Ⅰ・Ⅱの進行に合わせて授業を組むと同時に成人看護活動論Ⅰでの学習を活かして活動論Ⅱを展開することにより、支援方法の理解が深められると考える。また、学習進度に合ったものとなり学習効果も得られると考える。」（2013年11月27日教授会）

2．平成27年度（2015年）開講科目の学期変更

1）成人看護学概論（２年次前期科目から１年次後期科目へ）

「看護学概論で、看護・人間・健康・環境などの概念について学び１年前期で終了している。その知識を基礎として成人期の対象の特徴・健康課題の特徴とそれらの対象への看護の役割を成人看護学概論で学び、２年前期開講の高齢者看護学、母性看護学概論、小児看護学概論につなげていく。このことにより、看護の対象の各発達段階における特徴を関連づけて理解しやすくなると考える。また、成人看護活動論Ⅰとの関係においても成人看護学概論を先行させたほうが、学生の学習進行に合ったものとなると考える。」（2013年11月27日教授会）

2）保健統計学Ⅰ（３年前期科目から３年後期科目へ）

「学習の順序性、３年次の実習までの講義スケジュールがタイトであることから開講学期を変更する。」（2015年１月28日教授会）

3．平成28年度（2016年）開講科目の学期変更

1）看護技術論Ⅲ（２年次前期科目から２年次後期科目へ）

「現行カリキュラムでは、２年次生の前期開講科目は看護技術論ⅡとⅢの２科目である。両科目とも演習科目であり、学生にとってはボリュームが多く効果的な学習となっていない。また、看護基礎実習Ⅱが後期にあり、この実習で学生は初めて一人の患者を受け持ち、看護計画を立案し必要な看護援助を行う実習となるが、基礎看護学領域の技術に関連する科目は、この実習以外には開講されてい

ない。そのため､学生の学習が分断され、実習前の不安だけが強くなったままの状態となっている。そこで、看護の基礎を確固たるものにすべく、看護技術論Ⅲを後期の科目とし、科目内においても前期で学習した看護過程の展開や技術チェックなど看護基礎実習Ⅱおよび各領域への学習へつなげるように講義・演習を組み立て、それまでの２年間の学習が統合されるような学習効果を図りたい。平成28年度より開講時期を２年次前期から後期に変更したい。」（2015年12月16日教授会）

以上が、平成25年度（2013年）カリキュラムにおける開講科目の学期変更の内容と理由である。その他、２年次生の科目配置と内容が過密であることから「看護理論」「家族看護学」「看護倫理」等の開講科目変更について、カリキュラム検討会およびカリキュラム専門委員会に提案されたが、教学の意見が十分に反映されていないといことで合意には至らなかった。

Ⅳ. 今後の課題

本稿では、カリキュラムを「はじめに」に定義した視点から述べたが、本来カリキュラムとは、「どのような能力をもつ人を育てたいのかという目標に向かって、学習者の身体的・精神的成長に合わせて、教育内容および学習経験を積み重ねていくための「教育計画、教育実践、評価の一連の過程」[6)]と定義される。また、看護基礎教育において「どのような能力をもつ人を育てたいのか」は、社会の看護職へのニーズにより時代とともに変化することから、社会の動向や地域性を含めて検討することが求められる。今後のカリキュラム改訂にあたり、改めて、本学がめざしている卒業生の特性や能力は何か、本学に入学を希望する学生の学習準備状況（レディネス）はどのような位置づけにあるのか、学習者に合わせた学習内容とは何か、また学習者が学習経験を積み重ねていくための順序性とは何か、さらにどのような方法で教育計画、実践、評価していくか、作成段階において一連の過程を明確にしておくことが必要といえる。

2017（平成29）年４月には、卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施および入学者受け入れの３つの方針（ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシー）を一貫性あるものとして策定し、公表することが義務付けられた。各大学では、最終的に策定されるカリキュラムにおいてこれらの整合性を図ることは言うまでもない。しかし、カリキュラム作成にあたって何より重要なことは、看護学の内容を初学者に最もわかりやすい文言、形で伝えることと考える。

2013（平成25）年開学時から開始された本カリキュラムは、５年間を経過し総括評価の時期を迎えている。本学においては、カリキュラム検討会およびカリキュラム専門委員会がカリキュラムに関する活動を担っていた。しかし、その主な活動は、上述した各領域から提案されたカリキュラム進行上、学習者の立場から教育効果に関する科目配置の変更の検討と、開学時に教育内容が明確化されていなかった「看護総合実習」「看護課題研究」「実践総合演習」の教育方法や評価の検討が最優先され、カリキュラムの評価方法の検討と評価の実施には至らなかった。また、学科会議等で、カリキュラムについて教員相互の意見交換を実施する機会が不十分であった。

カリキュラム評価は、何を評価するのかにより評価の視点も評価方法も全く異なってくる。聖路加国際大学では、カリキュラム評価の枠組みにはシステムモデルを応用し、「事前評価」「カリキュラム進行中の評価」「カリキュラム終了時（卒業時）の評価」さらに、「卒業後の評価」について、「学習者」「教師」

「カリキュラム」「環境」の視点から、学生と教員および臨床スタッフなどによる事前、形成および総括評価を継続的に実践している[7-9]。伝統的に教員の自律性は、カリキュラムに密接に関係しており、実際、教員はカリキュラムを「自分のもの」と思っている。これは、教員はカリキュラムを査定し、実行し、評価し、教育課程の品質を保証するために修正することに責任を負うことを意味する[10]といわれる。また、カリキュラムの運用は個々の教師によって行われ、カリキュラムはどのような理念のもとに作成され、何をめざしているのかについて教育に従事している全教師がカリキュラムの全体を周知しているかどうかが、カリキュラムを成功させる鍵になる[11]といわれる。本学においては、前述したカリキュラムとは何かという共通認識を基盤として、カリキュラム作成、実施、評価には全ての教員が参加していくという体制づくりが必要と考える。

V. おわりに

現行カリキュラムについて、本学の教育理念およびカリキュラム編成の特色と内容、そして５年間の中での変更の経緯についてその概要を述べてきた。社会の動向として看護教育モデル・コア・カリキュラム策定が検討されるなか、また本学においては2017（平成29）年保健医療学部看護学科となり栄養学科が新設されたなか、看護学科としてどのような看護専門職者育成をめざしているのか、育成のためにはどのような教育をしたいのか、原点に立ち返り、教員ひとり一人がカリキュラム作成と実施に積極的かつ主体的にかかわる体制づくりを出発点としたい。そうすることにより、学生にも本学の理念、また教員の看護教育へ熱意が伝わることと考える。今後、カリキュラム専門部会および学科会議において教員相互の意見交換を行いながら、カリキュラム改訂へ取り組みたいと考える。

文献

1）小山真理子.看護教育の現状と課題.季刊・社会保障研究.2000,36 (4),505—509.

2）大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会.看護学教育モデル・コア・カリキュラム（案）.2019.

3）上泉和子.看護学教育モデル・コア・カリキュラム（案）への意見.一般社団法人日本看護系大学協議会.2018,8,3.

4）札幌保健医療大学看護学部設置許可申請書に係る再補正申請書.2012.

5）文部科学省.「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」最終報告.2011

6）小山真理子.“看護教育のカリキュラム”.看護教育講座２看護教育カリキュラム.医学書院,2000, p 2.

7）菱沼典子,小山真理子,小島操子,他.聖路加看護大学1995年度改定カリキュラムについて.聖路加看護大学紀要.1996,22,113-121.

8）小山真理子,平林優子,南川雅子,他.聖路加看護大学におけるカリキュラム評価.聖路加看護大学紀要.2000,26,123-132.

9）麻原きよみ,有森直子,大森純子,他.聖路加看護大学2011年度改訂カリキュラム.聖路加看護大学紀要.2012,38,52—57.

10）Billings DM, Halstead JA.看護を教授すること.奥宮暁子監訳.医歯薬出版株式会社,2014,p 419.Teaching in Nursing.

11）小山真理子.“看護教育のカリキュラム”.看護教育講座２看護教育カリキュラム.医学書院,2000,p 8.